

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
																							
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		・経営理念を社内に掲げ、社員は会社の理念を理解し、経営目標に向かって自らの使命とやりがいを感じている。 ・朝礼で全員唱和することで日々の実践につなげている。								8	9								17	
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		・法令遵守の規程(社内規程を含む)があり常時閲覧可能としている。 ・法令遵守の規程等の文書を回覧したり、ミーティング等で告知したりして、社員に周知している。																16		
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		・公正取引に関する倫理理念を明文化し社内に掲げている。 ・社員全員に、公正な取引の重要性を周知して徹底している。併せて取引先に対して不当な値引きや圧力がないかのチェックを徹底している。										10						16		
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		・責任者、担当者を任命し、会社の事業活動が社会に及ぼす影響の重大さを把握し、会社の体制を整備している。																16		
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		・知的財産の保護に関する研修等を定期的に行っている。								8.2 8.3	9							16		
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		・個人情報管理に関する規定を作成し、全員への研修を行っている。 ・退職者の守秘義務に関する誓約書を提出してもらっている。																16		
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		・測量作業時は、関連する地域住民などに作業情報を事前広報するようステークホルダーと連携した取り組みを進めている。 ・日常的に顧客とのコミュニケーションを図り、顧客の声を大事にしている。															16	17		
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。		●						5			8		10		12	13	14	15	16	17	
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。		●											9		11		13.1			16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている		●	・後継者の指導・育成に取り組んでいる。 ・社内規定等の見直しを行い、継承が円滑に行われるよう取り組んでいる。								8	9								17	
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。		●			1	2			5			8			12	13	14	15	16	17	
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		・各種ハラスメントの禁止について、就業規則に定めている。 ・男女各1名、カウンセラーを設け、社員の相談ができる体制を整備している。				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7		
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		・現場での安全体制について、定期的にミーティング(KY活動等)を行い徹底している。 また、現場での安全管理について協力会社とも連携している。 ・社内の規定、マニュアルを設け社員に周知している。			3					8.8										
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		厚生労働省の「同一労働同一賃金ガイドライン」を理解し、ガイドラインに沿った体制を整備して運営を行っている。					5.5			8.5		10.2 10.3								
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		・一人に業務が集中しすぎないよう残業時間のチェックを日々行い、労働時間の短縮及び効率化を図っている。 ・有給休暇の取得を推奨している。			3		5.5			8.5 8.8		10.3								
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		・必要な研修費用の補助や社内研修の充実化を図り、幅広く能力開発や教育訓練を提供している。 ・資格取得の講習会参加を促し、資格取得後の手当や祝金支給も行っている。				4	5.5			8	9									
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		・社員全員に定期的な健康診断の受診を行い、インフルエンザ予防接種の経費補助も 行っている。 ・交通安全運転管理において社員全員の安全管理を行っている。			3					8									17	
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		・女性の現場技術員も配置し、男女差別なく業務を行い、性別などの差別待遇はない。				4.4	5.1 5.5			8.5		10.2 10.3						16.7		
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。		●	・在宅勤務(テレワーク)や時短勤務を導入し、採用の面接においても、リモート面接やリモート会社説明会を行ったりしている。 ・出社時の検温やマスクの着用を必須化している。			3					8	9.1		11	12						
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。		●	・現場作業の人員削減や効率化をめざし、ドローンや3次元測量機器を購入し取り組んでいる。 ・ICTをより充実させるため、現在の社内情報の整理を行っている。								8	9.1		11	12						
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。		●	・令和4年にプライト企業の更新認定を受けている。 ・次回の更新に向けて取り組んでいるところである。				3	4				8	9			12					

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・廃棄物の処理は自治体の規程に沿って、適切な管理をし処理している。 ・廃棄物減量やリサイクルの責任者を任命し、廃棄物管理に取り組んでいる。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1		
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・社内の電灯はすべてLEDを使用し、電気使用量を把握している。 ・昼休み時間は社内の電灯を消し、省エネに取り組んでいる。 ・CO2排出量産出システム「炭削くん」を利用し、カーボンニュートラルに貢献している。							7.3						13				
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・CO2排出量産出システム「炭削くん」を利用し、温質効果ガス排出量を把握している。 ・社用車の停車時アイドリングの自粛を周知している。 ・社用車のEV化で段階的にハイブリッドを購入し、ガソリンにたよらない取組みをしている。		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15		
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・業務や日々の生活で、廃プラやレジ袋の使用削減、リサイクルに取り組んでいる。 ・現場作業でも、無駄な伐採をなくし現状維持や生物多様性の保全に取り組んでいる。						6.6								14	15		
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・社内の印刷は裏紙を利用したり、4アップ印刷で紙面の削減に取り組んでいる。 ・再生用紙の利用を推進し、古紙はリサイクルにまわしている。									9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15		
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・社内において、「節水」や「汚水等の適切な処理」を実施している。 ・水道使用量をチェックしその増減を確認している。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15		17
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・会社備品では省エネ型の製品を購入している。 ・グリーン製品を積極的に購入したり、再生用紙を利用することを進めている。									9.4			12.4 12.5	13	14	15		
	29	【食品ロス削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。		●		1	2				6.4						12.3		14	15		17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。		●	・社屋周辺に樹木を植栽している。 ・定期的に剪定することで、緑の創出と保全・管理に取り組んでいる。 ・地域の緑化、清掃活動に取り組んでいる。											11.6 11.7		13.1 13.3		15		17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。		●	・現場作業時の機器では太陽光による充電を行う器具を活用している。							7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3				
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・“伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。		●							6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。		●	・NPO法人の植栽事業に毎年参加している。(金峰山植栽)						6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。		●	・出張や現地作業等で会社を離れた時の弁当や飲料等の廃棄物は、会社にとって帰り適切に処理(リサイクル)するように取り組んでいる。												12.2 12.5		14			
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。		●										9.4		11.2		13.1 13.3				
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。		●								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13				17.2

更新		SDGs達成に向けた取組みチェックリスト		事業者名: 株式会社 熊本建設コンサルタント		・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。																	(様式第2号)	
分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
																								
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		・業務計画書に成果品の品質向上の方法を明記し、顧客に説明している。 ・業務の段階ごとに照査を行い品質向上に取り組んでいる。			3.9						9			12.4							
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		・施設の設計等(特に歩道設計)において、ユニバーサルデザインを取り入れている。									9.1	10	11.7						17		
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●			2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17		
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●								7					12.2	13.1		15				
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。		●			2.3 2.4						8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15			17	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		・県内のボランティア活動には積極的に参加し、植樹や清掃活動を行っている。 ・災害被災自治体には寄付を行っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		・社内にハザードマップを展示し、社員が周知できるようにしている。 ・非常時の全員への連絡用としてLINEを活用している。				4							11.5		13.1			16			
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●	・緊急時の避難場所として、弊社駐車場を提供するようにしている。	1.5		3	4						10.2	11.5		13.1			16	17		
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●										9		11	12	13.1						
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●	・社内でSDGsに関する研修を行い、社員の意識は高まっている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	・高校生や大学生のインターンシップを積極的に取り入れている。 ・毎年、高校生の「職場体験事業」に参加している。				4				8.6		10.2							17		
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●	・採用にあたっては、県内の学生を積極的に雇用している。				4.4				8.5 8.6									17		
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●			2		4.3 4.4 4.5				8.6		10.2		12	13	14	15			17	